

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	島田長人臨床教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Nagato Shimada
作成者（著者）	瓜田, 純久
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(1). p.10 10.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2022 048
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD32074335">https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD32074335</a>

# 島田長人臨床教授送別の辞

瓜田 純久

東邦大学医学部医学科, 総合診療・救急医学講座

2004年に設立された総合診療急病センター（外科）の初代診療部長の島田長人先生が2023年3月で退官されます。杉本元信院長時代には副院長を務め、教育企画管理部の臨床教授として大森病院の臨床と教育において重責を担ってこられました。転換期をむかえていた初期研修医制度においては生活指導も含めてご苦労が絶えなかったことは本学教職員みなで周知する通りです。

私と島田先生との出会いは研修医1年目で当直に行った千葉県大野中央病院でした。当時の研修医は6ヶ月の研修後に外勤が開始され、忙しい野戦病院の当直を割り当てられることが一般的でした。第二外科の先生も一緒に当直しており、内科疾患でも相談することができるため、大野中央病院には当時入局した1年目5名が月曜日から金曜日まで当直を命じられました。私は故鈴木孝雄先生（第二外科助教授）と毎週木曜日に当直していましたが、金曜日の当直と交代したときに、島田先生と一緒に当直することがありました。島田先生と当直した夜に外傷で口腔内に裂傷のある患者さんが来院し、当時卒後4年目の島田先生が手際よく縫合していたのを見て、目を丸くしておりました。当直時の受付はアルバイトの学生さんでしたが、我々内科の1年生は「どんな患者さんが来ても外科の先生をなるべく呼ばず、内科を呼ぶようにして下さい。」とお願いしていました。それでも朝、受付の学生さんに聞くと、内科疾患も複雑なものは外科の先生が診てくれていたことも少なくありませんでした。今でも頭が上がりません。ありがとうございました。

診療科再編成において臓器別診療科を原則とする一方、責任臓器が明らかではない症例、複数の臓器障害を有する症例に適切に対応するため、大森病院では総合診療急病センター（救命救急センター、総合内科、総合外科、東洋医学科、感染症科）として診療活動に当たる体制となりました。島田先生は初代外科診療部長として、第二外科から移

籍されました。急性腹症の画像診断、緊急手術など、多くの患者さんを救命してきました。新しい診療体制は混乱が避けられませんが、同時に研修医制度も大きく変わり、教育企画管理部長としても未知の領域を進むことになりました。

日本では医療及び医学教育においてだけではなく、制度の改革が優先され、現場がそれに合わせて受動的に対応することが多いのが現実です。明治維新において徳川期を支配した儒教的思惟を基礎とする形而上学的規範を克服するため、近代科学を背景とした実学が重視されてきました。西欧先進国においてはまず人民の生活社会の進歩があり、その中から多くの理論が形成され、制度改革に至った歴史がありますが、日本ではそれとは逆方向の流れで誕生してきました。科学で欧米を追いかけていた日本では、構造を無条件に輸入してから内容を決める傾向があり、医療及び医学教育でも同様でした。制度の改革が進められても社会の実態、臨床現場、とりわけ意識改革にはほど遠いのが現状だったのかもしれませんが、欧米の個人的な自主自由の権利を重視する潮流は日本の文明開化に大きな影響を及ぼしましたが、実学優先の路線は益々強化され、多くの情報から普遍的法則を求める帰納的思考が推奨され、少ない定理・公理から理論を展開する演繹的思考が軽視されてきました。人間の理想や規範意識のような無形の観念形態が果たす役割についての理解が著しく低下した社会ともいえます。医学の進歩は驚異的ですが、健全な倫理的原理と両立が困難な場合もあり、臨床現場では最適解が見つからない場合も少なくありません。大森病院の医学教育責任者として、島田先生のご苦勞を表現できる言葉は見つかりません。まもなく百周年を迎える本学ですが、「総合外科」「教育企画管理部」はその歴史に刻まれるべき存在であることは間違いありません。これからも本学のために指導いただきますようお願い申し上げます。ありがとうございました。